

資料編

1 投資・財政計画

(1) 水道用水供給事業

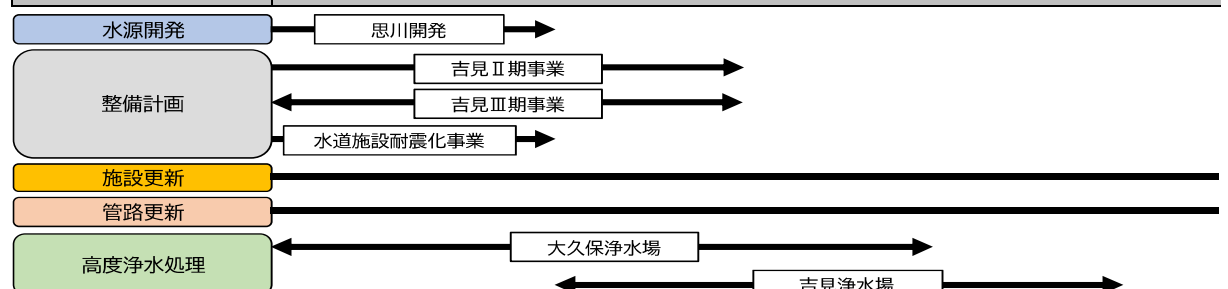
本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間となっていますが、管路更新など設備投資は長期に及ぶため、本計画策定にあたり長期的な視点も必要となることから、これまでの実績を踏まえて今後15年間のシミュレーションを実施しました。

このシミュレーションのうち給水収益については、「埼玉県長期水需給の見通し」に基づき、費用については実績からの見込みなどに基づき試算しています。

今後の財政シミュレーション【決算ベース・料金改定なし】

		計画1年目	計画2年目	計画3年目	計画4年目	計画5年目	計画6年目	計画7年目	計画8年目	計画9年目	計画10年目
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
収益	1 営業収益(A)	39,561	38,522	38,294	38,096	37,923	37,865	37,556	37,392	37,224	37,162
	(1)給水収益	39,489	38,450	38,222	38,024	37,851	37,793	37,524	37,360	37,192	37,130
	(2)その他営業収益	72	72	72	72	72	72	32	32	32	32
	2 営業外収益(B)	4,702	4,139	3,844	3,711	3,567	3,815	3,828	4,032	4,071	4,850
	(1)受取利息	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	(2)他会計補助金	374	305	286	245	228	210	192	173	154	134
(3)長期前受金戻入	4,324	3,830	3,554	3,462	3,335	3,601	3,632	3,855	3,913	4,712	
3 収益計(C) ((A)+(B))	44,263	42,661	42,138	41,807	41,490	41,680	41,384	41,424	41,295	42,012	
費用	1 営業費用(D)	40,812	39,782	39,463	39,223	38,231	39,588	38,677	41,638	41,783	44,386
	(1)人件費	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386
	(2)動力費	3,319	3,318	3,298	3,281	3,266	3,330	3,306	3,537	3,522	3,605
	(3)薬品費	1,429	1,423	1,433	1,580	1,595	1,952	1,964	1,611	1,624	1,560
	(4)修繕費	3,933	3,704	4,341	4,034	3,838	3,527	3,012	3,749	3,864	3,940
	(5)その他営業費用	8,243	7,537	7,377	7,441	7,435	8,321	7,813	8,008	8,043	8,264
	(6)減価償却費	21,235	21,051	20,264	20,117	19,326	19,711	19,830	21,988	21,971	24,275
	(7)資産減耗費	267	363	364	384	385	361	366	359	373	356
	2 営業外費用(E)	2,508	2,192	2,572	2,603	2,432	2,383	2,591	2,900	2,814	2,852
	(1)支払利息	2,508	2,192	2,572	2,603	2,432	2,383	2,591	2,900	2,814	2,852
	(2)雑支出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3 費用計(F) ((D)+(E))	43,320	41,974	42,035	41,826	40,663	41,971	41,268	44,538	44,597	47,238
	経常損益(G) ((C)-(F))	943	687	103	▲ 19	827	▲ 291	116	▲ 3,114	▲ 3,302	▲ 5,226
特別利益(H)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特別損失(I)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純損益(J) ((G)+(H)-(I))	943	687	103	▲ 19	827	▲ 291	116	▲ 3,114	▲ 3,302	▲ 5,226	

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
資本的収入	1 国庫補助金	1,410	4,773	5,539	7,679	9,379	10,890	5,795	5,181	3,722	5,047
	2 企業債	4,025	23,880	18,395	26,492	30,271	38,523	23,399	16,906	21,684	19,887
	3 出資金(県債)	2,671	9,740	5,863	10,861	13,974	14,226	10,720	7,636	4,064	4,358
	4 出資金(一財)	822	911	931	908	926	945	964	983	1,003	858
	5 他会計補助金	227	225	225	225	225	225	225	125	125	125
	6 工水借入	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収入計(A)	9,157	39,529	30,953	46,165	54,775	64,809	41,103	30,831	30,598	30,275
資本的支出	1 建設改良費	14,784	40,059	31,222	46,333	54,811	64,088	41,447	30,649	31,588	30,773
	2 企業債償還金	9,387	10,931	11,998	12,449	13,873	15,006	16,385	17,151	16,943	18,354
	3 機構負担年賦金	2,467	3,018	3,078	3,173	3,237	3,302	3,368	3,436	3,506	3,081
	4 撤退負担金	2,862	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5 工水償還金	170	69	69	-	-	-	-	-	-	-
支出計(B)	29,670	54,077	46,367	61,955	71,921	82,396	61,200	51,236	52,037	52,208	
収支差不足額(C) ((A)-(B))	▲ 20,513	▲ 14,548	▲ 15,414	▲ 15,790	▲ 17,146	▲ 17,587	▲ 20,097	▲ 20,405	▲ 21,439	▲ 21,933	
企業債残高	105,027	117,975	124,371	138,414	154,812	178,329	185,343	185,098	189,839	191,372	
機構負担年賦金残高	38,609	35,762	32,857	39,791	36,725	33,598	30,408	27,153	23,832	20,902	
PFI年賦金残高	819	660	499	335	168	-	-	-	-	-	
工水借入金残高	138	69	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	144,593	154,466	157,727	178,540	191,705	211,927	215,751	212,251	213,671	212,274	
内部留保資金残高	36,400	40,050	41,739	42,896	42,881	41,133	37,048	31,221	23,428	15,071	

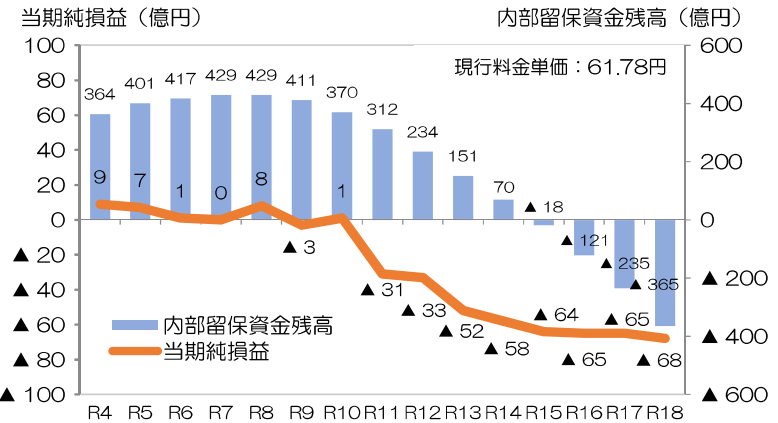


なお、水の需要やエネルギー価格の変動、工事等の落札率、また、技術革新や水道用水供給事業に求められる安全水準など事業を取り巻く環境の変化によって大きく変わる可能性があります。

本計画の計画期間においてアセットマネジメント、DXの推進等によるさらなるコスト削減で費用面を抑制するなど経営改善に努め、収支均衡を図っていきます。

◆左表の内部留保資金残高と当期純損益

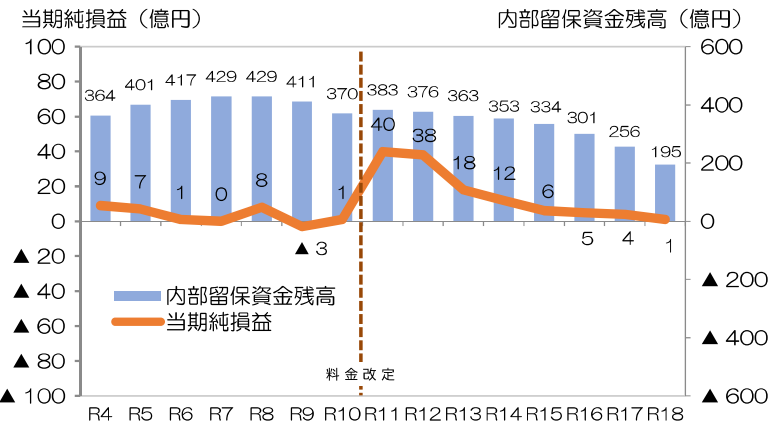
現行料金【61.78円】(単位:百万円)				
計画11年目	計画12年目	計画13年目	計画14年目	計画15年目
R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
36,897	36,735	36,574	36,513	36,253
36,865	36,703	36,542	36,481	36,221
32	32	32	32	32
4,783	3,852	3,796	3,751	3,698
4	4	4	4	4
115	95	75	54	33
4,664	3,753	3,717	3,693	3,661
41,680	40,587	40,370	40,264	39,951
44,698	44,382	44,294	44,230	44,263
2,386	2,386	2,386	2,386	2,386
3,582	3,568	3,553	3,548	3,525
1,567	1,579	1,592	1,610	1,616
4,380	4,399	4,568	4,500	4,456
8,300	8,307	8,335	8,362	8,437
24,124	23,776	23,493	23,456	23,477
359	367	367	368	366
2,770	2,606	2,537	2,537	2,479
2,770	2,606	2,537	2,537	2,479
-	-	-	-	-
47,468	46,988	46,831	46,767	46,742
▲ 5,788	▲ 6,401	▲ 6,461	▲ 6,503	▲ 6,791
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
▲ 5,788	▲ 6,401	▲ 6,461	▲ 6,503	▲ 6,791



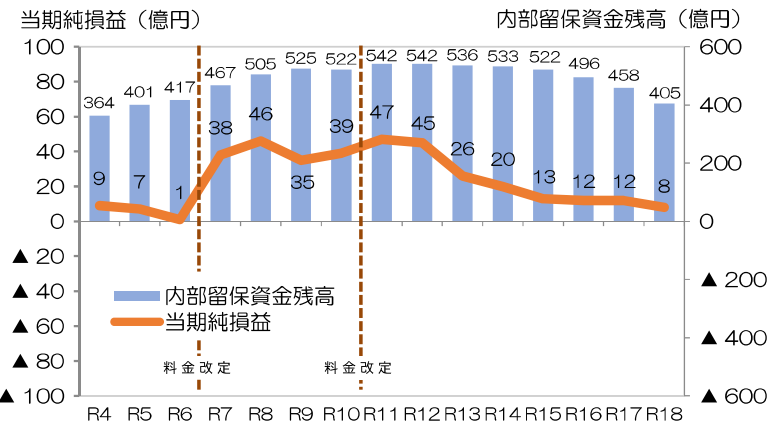
◆料金改定により収支均衡を図るイメージ

1段階 (料金単価+20%)

R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
5,535	5,326	6,334	6,041	5,589
16,551	23,266	36,568	30,438	31,707
7,704	6,265	13,080	11,122	7,815
878	898	918	939	961
125	125	125	125	125
-	-	-	-	-
30,793	35,880	57,025	48,665	46,197
30,442	36,414	58,299	49,486	47,515
19,242	19,037	19,368	20,824	21,588
3,150	3,221	3,294	3,368	3,444
-	-	-	-	-
52,834	58,672	80,961	73,678	72,547
▲ 22,041	▲ 22,792	▲ 23,936	▲ 25,013	▲ 26,350
188,682	192,910	210,109	219,724	229,843
17,907	14,844	11,712	8,510	5,235
-	-	-	-	-
206,589	207,754	221,821	228,234	235,078
7,029	▲ 1,806	▲ 12,091	▲ 23,508	▲ 36,501



2段階 (料金単価各段階+10%)



← 庄和・行田浄水場 ※ →
※ 実施時期などについては、今後検討。

(2) 工業用水道事業

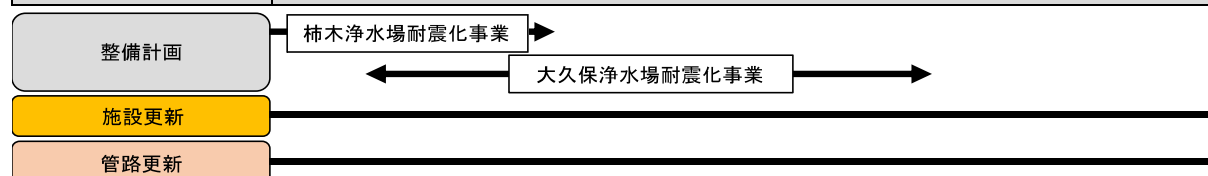
本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間となっていますが、管路更新など設備投資は長期に及ぶため、本計画策定にあたり長期的な視点も必要となることから、これまでの実績を踏まえて今後15年間のシミュレーションを実施しました。このシミュレーションは、実績からの見込みなどに基づき試算しています。

今後の財政シミュレーション【決算ベース・料金改定なし】

		計画1年目	計画2年目	計画3年目	計画4年目	計画5年目	計画6年目	計画7年目	計画8年目	計画9年目	計画10年目
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
収益	1 営業収益(A)	1,565	1,551	1,539	1,531	1,523	1,515	1,506	1,499	1,491	1,483
	(1)給水収益	1,553	1,550	1,538	1,530	1,522	1,514	1,506	1,499	1,491	1,483
	(2)その他営業収益	1	1	1	1	1	1	0	0	-	-
	(3)受託工事収益	11	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	2 営業外収益(B)	127	109	107	104	105	101	99	97	95	92
	(1)受取利息	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	(2)他会計補助金	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	(3)長期前受金戻入	124	107	105	103	104	100	98	96	94	91
	3 収益計(C) ((A)+(B))	1,692	1,660	1,646	1,635	1,628	1,616	1,605	1,596	1,586	1,575
	費用	1 営業費用(D)	1,655	1,777	1,722	1,825	1,875	1,728	1,963	1,920	1,879
(1)人件費		209	209	209	209	209	209	209	209	209	209
(2)動力費		31	31	31	31	31	31	30	30	30	30
(3)薬品費		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
(4)修繕費		80	139	96	90	81	84	166	138	139	135
(5)受託工事費		11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(5)その他営業費用		604	706	693	645	639	670	683	680	673	674
(6)減価償却費		591	623	622	638	654	666	674	662	663	675
(7)資産減耗費		121	61	63	204	253	60	193	193	157	60
2 営業外費用(E)		3	2	1	1	0	0	-	-	-	-
(1)支払利息		3	2	1	1	0	0	-	-	-	-
3 費用計(F) ((D)+(E))		1,658	1,779	1,723	1,826	1,875	1,728	1,963	1,920	1,879	1,791
経常損益(G) ((C)-(F))		34	▲ 119	▲ 77	▲ 191	▲ 247	▲ 112	▲ 358	▲ 324	▲ 293	▲ 216
特別利益(H)	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	
特別損失(I)	-	-	-	28	-	42	-	-	-	-	
当期純損益(J) ((G)+(H)-(I))	34	▲ 119	▲ 77	▲ 212	▲ 247	▲ 154	▲ 358	▲ 324	▲ 293	▲ 216	

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
資本的収入	1 国庫補助金	43	13	13	-	-	-	-	-	-	-
	2 企業債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3 出資金(県債)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4 出資金(一財)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5 他会計補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6 上水からの償還金等	130	69	69	0	0	-	-	-	-	-
	7 固定資産売却等	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収入計(A)	173	82	82	0	0	0	0	0	0	0
資本的支出	1 建設改良費	968	1,563	723	1,015	781	1,142	1,476	817	987	1,310
	2 企業債償還金	78	35	26	13	10	10	-	-	-	-
	3 機構負担年賦金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4 その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	支出計(B)	1,046	1,598	749	1,028	791	1,152	1,476	817	987	1,310
収支差不足額(C) ((A)-(B))	▲ 873	▲ 1,516	▲ 667	▲ 1,028	▲ 791	▲ 1,152	▲ 1,476	▲ 817	▲ 987	▲ 1,310	
企業債残高	270	175	0	0	0	-	-	-	-	-	

内部留保資金残高	11,968	10,840	10,606	9,914	9,404	8,656	7,377	6,780	6,051	5,100
----------	--------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

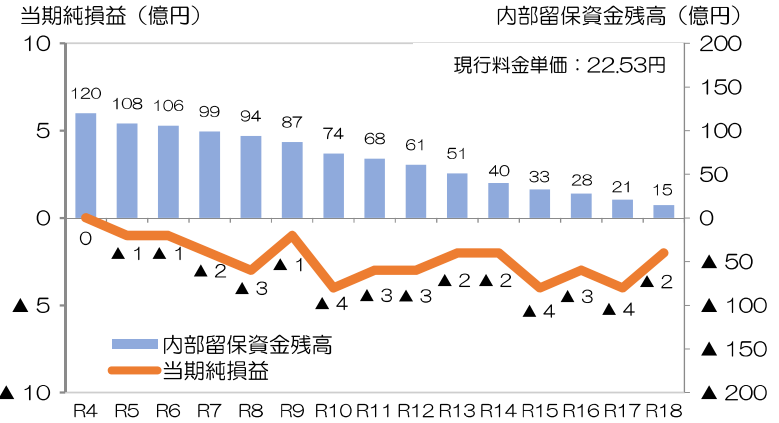


なお、水の需要やエネルギー価格の変動、工事等の落札率、また、技術革新や受水企業のニーズなど事業を取り巻く環境の変化によって大きく変わる可能性があります。

本計画の計画期間においてアセットマネジメント、DXの推進等によるさらなるコスト縮減で費用面を抑制するなど経営改善に努め、収支均衡を図っていきます。

◆左表の内部留保資金残高と当期純損益

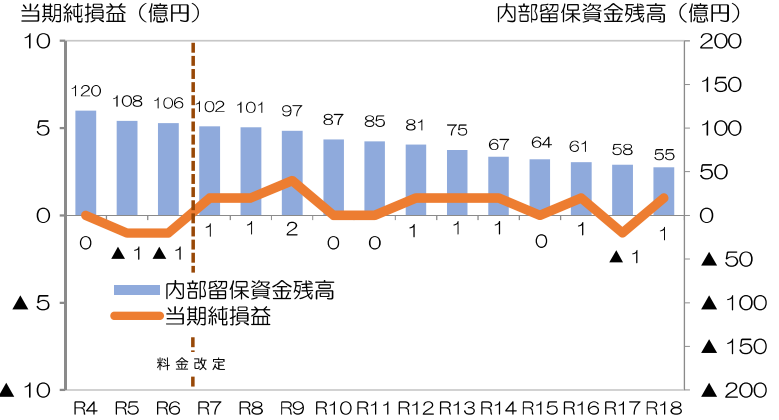
現行料金【22.53円】(単位:百万円)				
計画11年目	計画12年目	計画13年目	計画14年目	計画15年目
R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
1,476	1,468	1,461	1,453	1,446
1,476	1,468	1,461	1,453	1,446
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
91	84	82	80	78
-	-	-	-	-
1	1	1	1	1
90	83	81	79	77
1,567	1,552	1,543	1,533	1,524
1,817	1,938	1,827	1,957	1,760
209	209	209	209	209
30	30	29	29	29
8	8	8	8	8
135	135	131	132	133
-	-	-	-	-
676	677	676	675	675
699	694	714	719	646
60	185	60	185	60
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
1,817	1,938	1,827	1,957	1,760
▲ 250	▲ 386	▲ 284	▲ 424	▲ 236
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
▲ 250	▲ 386	▲ 284	▲ 424	▲ 236



◆料金改定により収支均衡を図るイメージ

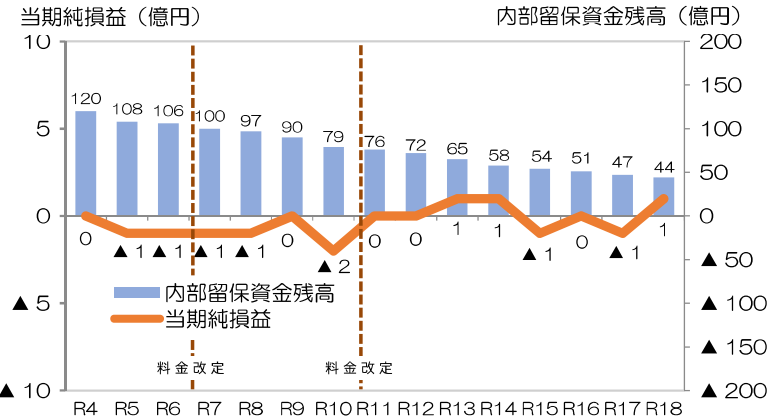
1 段階 (料金単価+20%)

R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
0	0	0	0	0
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
0	0	0	0	0
1,410	906	906	906	906
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
▲ 1,410	▲ 906	▲ 906	▲ 906	▲ 906
-	-	-	-	-
4,040	3,339	2,773	2,063	1,481



2 段階 (料金単価各段階+10%)

R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
0	0	0	0	0
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
0	0	0	0	0
1,410	906	906	906	906
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
▲ 1,410	▲ 906	▲ 906	▲ 906	▲ 906
-	-	-	-	-
4,040	3,339	2,773	2,063	1,481



(3) 地域整備事業

今後5年間で産業団地約100haを開発し、順次分譲を進めていく予定です。

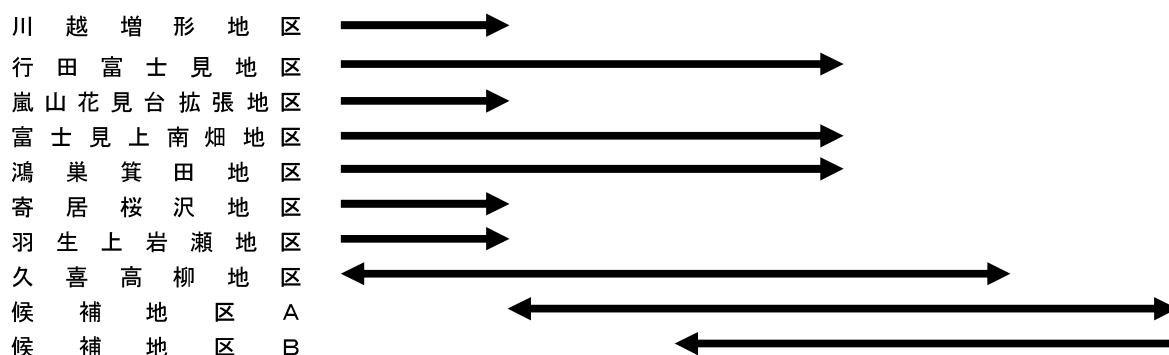
新型コロナウイルス感染症の流行など、景気の先行きは不透明な状況にあることから、新たな産業団地の開発に当たっては、市町村や企業の立地ニーズ、収支バランスに留意し、慎重に進めていきます。

売却収益は各地区の事業最終年度に計上し、貸付収益は令和3年度の実績額を計上しています。

候補地区の建設改良費は過去の産業団地整備の実績を踏まえて設定しています。

(単位:百万円)

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
収益的 収支	収益	23,871	829	22,783	8,581	7,110
	産業団地売却収益	23,005	0	21,960	7,750	6,280
	産業団地貸付収益	429	429	429	429	429
	ゴルフ場貸付収益	365	365	365	365	365
	受取利息等	72	35	29	37	36
	費用	20,470	783	21,353	8,403	6,963
	産業団地売却原価	19,687	0	20,570	7,620	6,180
	人件費等	657	657	657	657	657
	減価償却費等	126	126	126	126	126
	当年度損益	3,401	46	1,430	178	147
累積損益	6,358	6,404	7,834	8,012	8,159	
資本的 収支	収入	1,542	1,547	1,272	1,001	1,001
	長期貸付金償還金	1,541	1,546	1,271	1,000	1,000
	他会計補助金等	1	1	1	1	1
	支出	4,396	5,690	13,092	6,812	11,498
	建設改良費	4,196	5,490	12,892	6,612	11,298
	事務費等	200	200	200	200	200
	差引	▲ 2,854	▲ 4,143	▲ 11,820	▲ 5,811	▲ 10,497
内部留保資金残高		48,772	44,484	54,476	56,545	52,459



2 事業の廃止・撤退

(1) 詳細調査に基づく事業見直し（骨材製造事業）

昭和 42 年には、県内で良質な砂利が採取可能で採算ベースにのるとの情報を得て、条例に定め、事業着手のための詳細調査を実施したところ、当初の見込みほど骨材の採取が見込めないことが判明したため、昭和 44 年には事業を廃止しました。

(2) 行政の計画変更に伴う事業見直しの事例（三峯観光道路）

県の総合計画の一環として奥秩父の観光資源開発と地域振興を目的に昭和 42 年に本県初の有料道路として開業しましたが、周遊ルートという当初計画が、道路計画上の諸問題から行き止まり道路となり、年々営業収支は悪化の一途をたどりました。

企業局経営管理改善委員会において経営改善策の検討が進められ、企業債の償還が終了する昭和 61 年度末に県道に移管しました。

(3) 民間事業者との役割分担その 1（神川温泉保養センター）

県民の健康増進と健全な余暇活動の振興を図り、地域の活性化に寄与することを目的として、平成 13 年 9 月に県営神川温泉保養センターをオープンしました。当該施設周辺に、民間が同様の施設を開業し、県が事業を続けることは屋上屋を重ねることにもつながるとともに、入館者の減少により経営環境が悪化したことから、平成 17 年度末に、県営施設としての運営を終了し、民間に譲渡しました。

(4) 民間事業者との役割分担その 2（発電事業）

埼玉県企業局設置より早い昭和 35 年に開業し、健全経営を維持していましたが、規制緩和による電力の自由化の波を受け、電気料金が年々引き下げられ、経営環境が厳しくなることが予想されたことから、事業単独で清算ができる早期に撤退が望ましいとして、平成 20 年 9 月に民間譲渡しました。

(5) その他特別損失事業

条例に規定する前に、収益の見込みがあるとして調査を実施し、その後の詳細調査で事業着手を中止し、特別損出等を計上した事業。

平成5年度以降事業化を検討したが断念した事業

単位:千円

特損 処理	内容	調査 実施	金額	断念した理由
H27	深谷国道140号沿道地区概略可能性調査	H22	9,171	採算性
H26	天然ガス発電事業化可能性調査	H24	6,932	採算性
	寄居西の入地区調査(工業団地)	S56, S62	9,349	採算性
	深谷地区調査(工業団地)	S59	10,131	採算性(軟弱地盤)
	鷲宮久本寺地区調査(工業団地)	S63, H元,H2	29,734	採算性(軟弱地盤)
	ビル事業関連調査(ビル建設、売却、貸付)	H2,3	25,578	採算性
	聖地公園関連事業(墓地)	H3,H4, H5,H7	32,068	採算性(平地面積が 少ないため)
	見沼田園関連調査(工業団地)	S63	2,734	採算性
H14	県南西部開発調査(工業団地)	H元	3,842	採算性
	深谷東部地区調査(工業団地)	H8,H9, H10	29,098	採算性(分譲の見通 しが立たないため)
	騎西種足鴻巣笠原地区調査(工業団地)	H11, H12	16,800	採算性(分譲の見通 しが立たないため)
	公営企業における地域整備事業の展開に 係る検討調査 (新しい事業メニューの検討 例 光ファイバーの敷設、 ネットワーク機器のレンタル、 中心市街地の活性化、 福祉拠点施設整備)	H11, H12	10,700	採算性
H6	大里ゴルフ場調査		41,683	

3 用語解説

用 語	解 説
あ行	
アセットマネジメント	中長期的な視点に立ち、効率的かつ効果的に資産を管理運営する体系化された実践活動。施設の健全性を維持しつつ、更新費用を総額として最小化することや、更新時期を平準化するといった観点から活用される手法のこと。
あと数マイルプロジェクト	将来の人口・需要や新たな技術の動向等を十分に把握した上で、公共交通及び道路網の更なる利便性向上策について、これまでの経緯等も踏まえつつ検討し、限られた予算の中で、県境路線を含めた効果の高い部分について、重点的に整備を進めるもの。
安定水利権	河川において水源施設の整備などにより、年間を通じて安定的に確保される流量の範囲内で許可される水利権であり、他の河川使用者及び河川の流水の正常な機能の維持との調整がなされ、取水が安定的に継続される水利権のこと。
SDGs	Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。平成13年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年（令和12年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。
か行	
かび臭物質	水道水の異臭味のうち、墨汁や土のような臭いの原因物質であり、水道水質基準項目の一つである。この物質は湖沼や流れの緩やかな河川で繁殖する微生物が産生するものである。
計画給水人口	水道法では水道事業経営の認可に係わる事業計画において定める給水人口をいう。水道施設の規模を決定する要因の一つであり、計画給水区域内の常住人口を基に計画年次における人口を推定し、これに給水普及率を乗じて定める。
県水転換率	市や町の水道事業が取水した水量（県営水道からの受水量と地下水など自己水源からの取水量の合計）のうち、県営水量からの受水量の割合。埼玉県では、地盤沈下防止のため地下水から県水への転換を図ってきたことから、県水転換率と表現している。
高度浄水処理	通常の浄水処理では十分に対応できない臭気物質、トリハロメタン前駆物質、色度、アンモニア性窒素、陰イオン界面活性剤などの処理を目的として、通常の浄水処理に追加して導入する処理のこと。代表的な高度浄水処理の方法としては、オゾン処理法、活性炭処理法、生物処理法及びエアレーションがあり、処理対象物質などによってこれらの処理方法が単独またはいくつかの組み合わせで用いられる。高度処理ともいう。

用語	解説
さ行	
雑用水	工業用水道事業者が、工業用水道に余剰が生じている場合に、供給できる工業用以外の用途の水（人の飲用に適する水として供給するものを除く）。
消毒副生成物	塩素などの消毒剤と水中の有機物とが副次的に反応して生成される物質。人体に有害な物質としてトリハロメタンなどがある。
受水団体	企業局の水道用水供給事業から水道用水の供給を受けている市や町などの水道事業者。
浄水発生土	河川の水を取水し、浄水場で水道水を作る過程で河川水に含まれる濁り成分を集めて脱水処理したもの。
水道広域化	給水サービスの高度化やライフラインとしての社会的責任を果たすために必要な財政基盤及び技術基盤の強化を目的として、複数の水道事業等が事業統合を行うこと。 これに対し、必要な財政基盤及び技術基盤強化を目的に複数事業の管理の全部又は一部を一体的に行うことを「新たな水道広域化」という。
水道G L P	水道水質検査優良試験所規範(Good Laboratory Practice)の略語。水道法に基づく水質検査を実施する機関における検査が、管理された体制の下で適正に実施され、その結果の信頼性を確保することを目的として公益社団法人日本水道協会が定めたもの。
水利権	河川の流水、湖沼の水などを取水し、利用することができる権利のこと。河川法が規定する公法上の権利。
スマートメーター	使用量をデジタルで計測する、通信機能を備えたメーター。
制水弁	管路中の水の流れを制御する弁。
責任水量制	実際の使用水量にかかわらず、あらかじめ供給契約で決めた水量に基づいて料金算定する固定料金制度。
た行	
ダウンサイジング	水需要の減少等に伴い施設能力を縮小して、施設の効率化を図ること。
地域防災計画	災害対策基本法第40条の規定及び防災基本計画に基づき、埼玉県の地域にかかる災害について、住民の生命、身体及び財産を保護するため、必要事項を定めた計画。
中継ポンプ所	水圧不足を補うために、送水管路の途中に設けられた増圧用のポンプ施設。
超高塩基度P A C	水道の浄水処理に用いられる凝集剤の一つであるポリ塩化アルミニウム(P A C)のうち、塩基度が70%程度のもの。 凝集剤注入率の削減、汚泥減容化、残留アルミニウムの低減等の特長がある。

用語	解説
デジタルトランスフォーメーション(DX)	デジタル(Digital)と変革を意味するトランスフォーメーション(Transformation)により作られた造語。様々なモノやサービスがデジタル化により便利になったり効率化され、その結果デジタル技術が社会に浸透することで、それまでには実現できなかった新たなサービスや価値が生まれる社会やサービスの変革を意味する。
トリハロメタン	メタン(CH ₄)の水素原子3個が、塩素、臭素、あるいはヨウ素に置換された有機ハロゲン化合物の総称。塩素消毒によって生成される物質のうち、クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルムの4物質の濃度の合計を総トリハロメタンといい、なかでも、クロロホルム、ブロモジクロロメタンはヒトに対して発がん性を示す可能性がある物質であると言われている。
は行	
PFI	公共施設の設計、建設、維持管理及び運営に、民間資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方。
ピコプランクトン	プランクトンのうち、大きさが0.2~2μm程度である極微小な生物群。非常に小さく、通常の顕微鏡ではその存在を確認しにくいいため、観察には落射蛍光顕微鏡や電子顕微鏡が用いられる。従属栄養性のピコプランクトンと独立栄養性のピコ植物プランクトンに分けられ、ピコ植物プランクトンの凝集沈殿処理での除去率は80%程度である。
変動供給	受水団体への水道用水の供給にあたり、定量で行う定量供給に対し、受水団体の需要に応じて供給量の変動する供給。
包括委託	浄水場は県の資産としたまま、浄水場施設の維持管理や運営を民間事業者に包括(とりまとめて一括的に)して委託すること。
ま行	
水安全計画	食品の安全管理に広く導入されているHACCP(ハサップ)の考え方を取り入れたもので、水源から給水地点までの全ての過程を通して、水質に影響を与える可能性(危害)を検討して、その対応方法を事前にマニュアル化した計画。企業局では、WHO(世界保健機関)の提唱に基づき、平成22年9月「埼玉県営水道水安全計画」として策定。
水総合管理システム	災害や水質事故時の危機管理対応の迅速化と浄水場の運転・水質管理の効率化、各浄水場間や受水団体との連携強化を目的とし平成30年度に運用を開始したシステム。県営各浄水場管理室で監視しているリアルタイムデータや受水地点の流量・圧力・弁開度データなどの水道情報と、国土交通省等の雨量や河川水位・河川流量データを端末やスマートフォンなどに一括表示・監視するなどの機能を持つ。
や行	
有収率	水道施設を通して送水される水がどの程度収益につながっているかを示す指標である。数値が高いほど良い。低い場合は送水途中での漏水の発生などが考えられる。

用 語	解 説
ら行	
レジリエンス	英語で、「強靱さ」を意味する言葉。地域においては、災害などの突発的な変化や平常時の重圧に対して、より着実に耐久し、適応するための能力とされる。
レベル2地震動	当該施設の設置地点において発生するものと想定される地震動のうち、最大規模の強さを有するもの。

※ 用語解説の一部は、日本水道協会発行「水道用語辞典（第2版）」から引用しています。



第5次企業局経営 5 年計画

編集・発行 埼玉県企業局

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-14-21

TEL 048-830-7015

Fax 048-822-9609

<http://www.pref.saitama.lg.jp/c1301/90a00-5kanen/5kanen-top.html>